

国 語

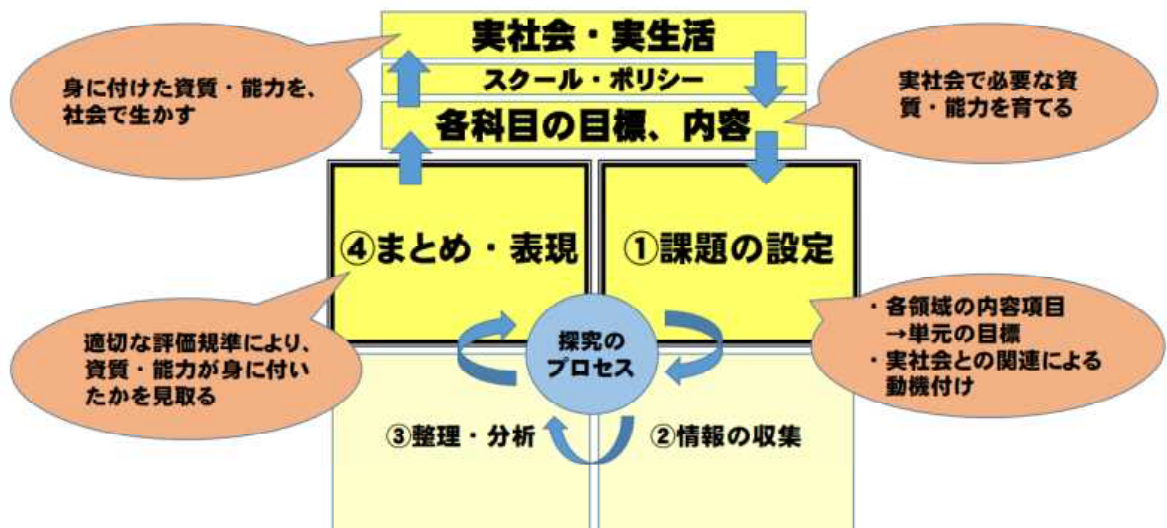
1 学習指導及び学習評価の改善・充実

(1) 社会とのつながりを意識した探究的な学習の推進

学習指導要領に示されているとおり、国語科の目標は、言葉による見方・考え方を働かせて、生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにしたり、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばしたりするといった、社会とのつながりを意識した資質・能力を育成することにある。

そこで、国語科の各科目において、社会とのつながりを意識した探究的な学習を推進するには、実社会や実生活において必要となる資質・能力の育成を念頭に置き、生徒の学びへの興味と努力し続ける意志を喚起するために、実社会や実生活に関連した課題を設定して動機付けを図ることが重要となる（下図①）。また、評価においては、探究のプロセスを通して身に付けさせた資質・能力について、実社会や実生活で生かすことのできるものとなっているかといった観点から、適切に見取ることが必要である（下図④）。

なお、各科目の指導事項のうち、「**考えの形成**」は探究的な学びの要素を含むものとして位置付けられていることから、特に「読むこと」の領域の指導においては、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」に留まることなく、「**考えの形成、共有**」に至るまで指導することに留意する必要がある。



**国語科における社会とのつながりを意識した探究的な学習
～社会とのつながりを意識した構想のポイント～**

	話すこと・聞くこと ※話し合うことの学習過程	書くこと	読むこと
①課題の設定	話題の設定	題材の設定	—
②情報の収集	情報の収集	情報の収集	構造と内容の把握
③整理・分析	内容の検討/話し合いの進め方の検討	内容の検討/構成の検討	精査・解釈
④まとめ・表現	考えの形成/共有	考えの形成/記述/推敲/共有	考えの形成/共有

(2) 探究的な活動を取り入れた単元の評価の工夫

探究的な活動を取り入れた単元の学習では、生徒が学習したことの意義や価値を実感できるようにすることが重要である。授業の際は、評価場面において、きめ細かく学習状況や目標の実現状況を把握することで生徒の学習の改善を図るとともに、教師自らの指導の改善につなげるために、小さなPDCAサイクルをまわす「形成的評価（指導に生かす評価）」を行うことが望まれる。

しかし、生徒一人一人の学習状況をきめ細かく把握することは容易ではなく、時に教師の「評価疲れ」を招くことになりかねない。そこで、最適な評価場面に最適な評価方法によって学習状況を見取ることができるよう、1人1台端末の環境を生かし、ICTを活用することが重要となる。

例えば、「季節感を題材とした散文を書く」という単元において、既習の作品から季節感を表す表現や語句等を書き出させる際に、Google Formsのアンケート機能を用いて入力させる方法が考えられる。生徒が入力したデータは教師のパソコンと即時に共有できるので、生徒が季節感を表す表現や語句等を適切に把握しているかどうかをリアルタイムに確認することができ、学習状況が思わしくない生徒に対しては、課題の趣旨をより丁寧に説明したり、つまずきに対して個別に助言を行ったりするなど、授業を進めながら自らの指導を振り返り改善することが可能となる。また、入力したデータをクラス全体で共有すれば、生徒が散文を書く際に自分の思いや体験を他者に効果的に伝えられるようにするための手がかりを得ることができ、学習したことの意義や価値を実感させる効果が期待できる。

なお、「記録に残す評価」における3観点の評価については、年間指導計画に基づき、バランスよく評価する必要がある。

2 指導と評価の計画例

(1) 国語表現「話合いの仕方や結論の出し方を工夫しよう（A 話すこと・聞くこと）」の計画例

キーワード

話し合うこと 社会と関わる 探究的な学び ICT

ア 単元の目標

(ア) 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けることができる。 [知識及び技能] (1)イ

(イ) 互いの主張や論拠を吟味したり、話合いの進行や展開を助けたりするために発言を工夫するなど、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの仕方や結論の出し方を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] A 話すこと・聞くこと (1)キ

(ウ) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

イ 本単元における言語活動と教材

(ア) 言語活動 話合いの目的に応じて結論を得たり、多様な考えを引き出したりするための議論や討論を行い、その記録を基に話合いの仕方や結論の出し方について批評する活動。(A 話すこと・聞くこと 言語活動例エ)

- (イ) 教材 (例)「グループディスカッションをしよう」(『国語表現』大修館書店)
 (例)「話し合う力をつけよう」(『国語表現』東京書籍)
 話し合いの進め方に関する動画、ワークシート等

ウ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話し言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。(1)イ)	「話すこと・聞くこと」において、話し合いの進行や展開を助けるために発言を工夫するなど、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。(A(1)キ)	話し合いを通して、粘り強く、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分け、話し合いの進行や展開を助けるために発言を工夫する中で、自らの学習を調整しようとしている。

エ 指導と評価の計画 (全6時間)

次	学習活動	指導上の留意点等	評価規準・評価方法等
1 ～ 2 単 位 時 間 ～	<p>○ 単元の目標及び学習の進め方を確認し、見通しをもつ。</p> <p>○ 動画を視聴し、次の2点について、気付いたことを入力する。</p> <p>(1) 話し合いにおける適切な表現や言葉遣いについて</p> <p>(2) 話し合いにおける参加者の役割について</p> <p>○ 上記(2)の「話し合いにおける参加者の役割」について、右の1～3の観点から「自己目標」及び「評価の規準」を各自で設定し、「評価シート」(後出)に記入する。</p>	<p>・話し合いのモデルとなる参考動画をICTを活用して配信する。</p> <p>・(1)について：Googleの表計算ソフトに入力させた情報をテキストマイニング分析し、画面共有にて提示する。出現頻度の高い語句に注目させ、適切な表現や言葉遣いについて考えさせる。</p> <p>・(2)について：次の観点を提示し、自分なりに「話し合いにおける参加者の役割」を整理するよう促す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 発言を促す役割 2 発言を整理する役割 3 意見をまとめる役割 	<p>【記録に残す評価】</p> <p>観点：[知識・技能]</p> <p>方法：「記述の確認」<u>Googleの表計算ソフト</u></p> <p>・動画や他者が挙げた情報から、話し合いにおける適切な表現や言葉遣いについて、理解できているか確認する。</p> <p>「自己目標」及び「評価の規準」を各自で設定する際には、話し合いの仕方や結論の出し方の工夫について、実社会や実生活につながるように、実際の生活場面を想定させるよう働き掛ける。</p>
2 ～ 2 単 位 時 間 ～	<p>○ 提示されたテーマについて、グループごとに話し合いを行う。</p> <p>○ 撮影した動画を視聴し、各自で設定した「自己目標」等に照らして、達成状況を相互評価する。</p>	<p>・例えば「席替えの仕方」や「空き教室の活用方法」、「学校祭のクラス発表」等、生徒の実生活に即したテーマを提示する。</p> <p>・話し合いの様子はグループごとにICT端末を活用して録画し、提出させる。</p> <p>・動画を視聴して他の生徒の話し合いの仕方を評価した結果と改善点を、「評価シート」の「評価結果とその理由」及び</p>	<p>【指導に生かす評価】</p> <p>観点：[思考・判断・表現]</p> <p>方法：「記述の確認」<u>評価シート</u></p> <p>※詳細については、「エ 学習指導案」及び「オ 授業改善につながる『指導に生かす評価』の工夫」を参照。</p>

	<p>○ 他者からの評価結果やアドバイス等を基に、自己の話合いの仕方を振り返り、改善策について考える。</p>	<p>「改善点・アドバイス」の欄に、それぞれ入力させる。</p> <p>・他者による評価結果とアドバイスを参考にして、第3次での話合いでは、どのような点に注意するか具体的に考えさせ、「評価シート」の【改善策の分析】に入力させる。</p>	<p>単元を通して身に付けた資質・能力が、実社会や実生活における話合いの場面に生かすことができるものになっているかといった観点から、「自己目標」に対する達成状況を自己評価するよう促す。</p>
3 (2 単 位 時 間)	<p>○ 第2次で考えた改善策を意識して、グループごとに話合いを行う。</p> <p>○ 単元の振り返りを行う。</p>	<p>・話合いの様子はICT端末で録画し、提出させる。</p> <p>・効果的な話合いができたかどうか、グループごとに振り返らせる。</p> <p>・各自で設定した「自己目標」に対する達成状況を分析し、自己評価する。</p>	<p>【記録に残す評価】 観点：[思考・判断・表現] 方法：「行動の分析」動画</p> <p>・「自己評価の規準」に基づき、行動できているかを分析する。</p> <p>【記録に残す評価】 観点：[主体的に学習に取り組む態度] 方法：「記述の分析」評価シート</p> <p>・粘り強く自らの学習を調整しようとしているかを分析する。</p>

エ 学習指導案（3時間目／6時間中）

科目名	国語表現	単元名	話合いの仕方や結論の出し方を工夫しよう（A話すこと・聞くこと）
本時の目標	話合いの進行や展開を助けるために発言を工夫するなど、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの仕方や結論の出し方を工夫しようとする。		
本時で取り上げる主な言語活動	前時で行った話合いの動画を視聴し、他の生徒の話合いの仕方を評価するとともに、他の生徒からの評価結果やアドバイスが記載された「評価シート」を基に、自分の話合いの仕方の改善策を明確にする。		
教材	前時の話合いの動画、各自で作成した「評価シート」等	実施対象	第3学年
本時における評価の観点、評価規準、評価方法	本時の評価の観点	本時の評価規準	本時の評価方法
	思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」において、話合いの進行や展開を助けたりするために発言を工夫するなど、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの仕方や結論の出し方を工夫している。（A(1)キ）	「記述の確認」評価シート 他者からの評価結果を基に、話合いの進行や展開を助けるために工夫すべきことは何かなどを自己分析し、考えを広げたり深めたりすることができているかを確認する。
学習活動（言語活動）		指導上の留意点	評価の実際
導入（5分） <ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を確認する。 ・第1次で作成した「評価シート」を確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・前時の話合い活動で別のグループだった生徒とペアになるよう指示する。 ・ペアの相手の「評価シート」を共有ドライブ上で確認するよう指示する。 ・評価の結果を「評価シート」の「評価結果とその理由」及び「改善点・アドバイス」の欄に入力するよう指示する。 ・評価結果やアドバイスについて、相互に理解できるよう、適宜、質疑応答させる。 ・改善策は具体的に書くよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「評価シート」の【改善策の分析】の記述内容から、「他者からの評価結果やアドバイスを基に、自分の話合いの仕方をどのように改善すればよいか具体的に考えている」姿を、「思考・判断・表現」の評価規準における「おおむね満足できる」状況（B）と捉え、評価する。 <p>※本時の評価は「指導に生かす評価」であるため、授業者は各ペアの相互評価の進み具合を共有ドライブ上で確認しながら、適宜助言等を行う。</p>
展開1（25分） <ul style="list-style-type: none"> ・「評価シート」を基に、ペアの相手に「自己目標」等を説明する。 ・ICT端末で動画を視聴し、ペアの相手が立てた「評価の規準」に基づいて、相互評価する。 			
展開2（15分） <ul style="list-style-type: none"> ・評価結果及びアドバイスの内容を互いに説明する。 ・ペアの相手からの評価結果やアドバイスを基に自分の話合いの仕方の改 			

善策を明確にし、「評価シート」に入力する。	
まとめ（5分） ・次時の話し合い活動に向けて、「評価シート」の改定が必要かどうか検討する。	・「自己目標」や「評価の規準」に改定が必要な場合は、別名でファイルを作成するよう指示する。

オ 授業改善につながる「指導に生かす評価」の工夫

【Googleの表計算ソフトを活用した「評価シート」の例（3時間目／6時間中）】

B	C	D	E	F
評価シート		国語表現「話し合いの仕方や結論の出し方を工夫しよう」		氏名（本人）○○ ○○
		評価者（「評価とその理由」「改善点・アドバイス」を入力する人）氏名 △△ △△		
①	自己目標	評価の規準	評価とその理由	改善点・アドバイス ②
1	話し合いが活発になるよう、発言を促すことができる。	話し合いの場が沈黙になったり、発言していない人がいたりしたら、発言するよう促している。	[B] ←評価（A・B・C）を入力 [理由] あまり沈黙にはなっていないが、特定の人が多く発言していた。	自分や他の人が発言した回数などを把握し、あまり発言していない人には質問を投げかけたら良いと思う。
2	話し合いが円滑に進むよう、自分や他の人の発言を整理することができる。	自分や他の人の発言の似た点や異なる点を見つけ、みんなに分かるように説明している。	[B] ←評価（A・B・C）を入力 [理由] 発言の似た点や異なる点を見つけようとしていたが、みんなへの説明はわかりにくかった。	「◇◇さんと◆◆さんの意見は『効率を重視する』という点で共通している」など共通点とその根拠を自分の言葉に置き換えて、説明する工夫が必要だと思う。
3	話し合いの結論を出せるよう、意見をまとめることができる。	自分や他の人の発言を根拠に、妥当性のある結論を選択し、その理由を説明して、みんなの同意を得ている。	[C] ←評価（A・B・C）を入力 [理由] なぜその結論を選択したのかという、理由の説明に妥当性が感じられなかった。	自分や他の人の意見に対するみんなの反応をしっかりと見て（反応が分からなかったら聞き返すなどして）、納得している反応が多く見られた意見を妥当性のある結論として選択した方が良い。
③ 【改善策の分析】（次回はどのようなことを意識して、話し合いに臨むかを具体的に入力する）				
	1	2	3	
	話し合いの中で、長く発言する人がいたら、途中で切って短くまとめて発言するよう促したり、発言の少ない人には質問を投げかけたりするなど、時間を見ながら話し合いを進める。	意見が出そろったら、共通点と相違点などの観点で意見を整理することを提案し、分類した理由をわかりやすい言葉に置き換えたり、たとえを用いたりして、整理した内容を簡潔に説明する。	自分が話す際、メモばかり見ながら話してしまったので、なるべくみんなの反応を見ながら話し、話し終わったらどう思ったかを言うてもらうように促すようにする。	
④ 【教員からの評価・アドバイス】				

①「自己目標」と「評価の規準」は第1次で本人が入力する。
 ②「評価とその理由」と「改善点・アドバイス」は第2次で他の生徒が入力する。
 ③「改善策の分析」は第2次で本人が入力する。
 ④「教員からの評価・アドバイス」は本単元終了時に教員が評価し入力する。

「評価シート」の作成・入力を全て共有ドライブ上で行わせることで、個々の生徒が他者からの評価結果を基に改善策を考えられているかどうかを、授業者はリアルタイムに把握することができる。改善策を上手く考えられていない場合は、個別に助言したり、上手くできている生徒のシートを共有して示したりするなど、指導を工夫する。

(2) 古典探究「古典における結婚生活と幸福感について考えを深めよう（読むこと）」の計画例

キーワード	探究的な学び 考えを広げる・深める 答えのない問い
--------------	----------------------------------

ア 単元の目標

(ア) 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができる。 [知識及び技能] (1)エ

(イ) 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

[思考力、判断力、表現力等] A 読むこと(1)ク

(ウ) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を

向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

[学びに向かう力、人間性等]

イ 本単元における言語活動と教材

(ア) 言語活動：同じ題材を取り上げた複数の古典の作品や文章を読み比べ、思想や感情などの共通点や相違点について発表する活動。(A読むこと 言語活動例イ)

教材：『蜻蛉日記』『うつろひたる菊』及び『伊勢物語』『筒井筒』

(イ) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。(1)エ)	「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。(A(1)ク)	古典における結婚生活と幸福感について話し合うことを通して、進んで、修辞などの表現の特色について理解を深め、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりする中で、自らの学習を調整しようとしている。

ウ 指導と評価の計画(全7時間)

次	学習活動	指導上の留意点等	評価規準・評価方法等
1 2 単 位 時 間 ～	<p>○ 単元の目標や学習の進め方を確認し、学習の共通しをもつ。</p> <p>結婚生活や幸福感といった現代人の生き方にもつながるキーワードを取り上げて課題を設定することで、実社会や実生活とのつながりを意識させる。</p> <p>○ 2つの作品の作者や成立した時代の背景を調べる。</p> <p>○ 教材内の和歌を解釈するために、各和歌の修辞について整理する。</p> <p>・修辞の種類と数の提示(教師)</p> <p>→修辞の特定(個人学習)</p> <p>→特定した修辞の共有(グループ学習・全体学習)</p>	<p>・本単元では、結婚生活を題材とした2つの古典教材に描かれた女性の心情や行動を比較することで、共通点と相違点を明らかにし、「平安時代の女性の結婚生活と幸福感」を描いた文学作品を読み継ぐことの意義について考えを深めることを説明する。</p> <p>・平安時代の婚姻の特徴や、藤原道綱母の人物関係等、教材の内容を把握するために必要な知識を理解させる。</p> <p>・整理した各和歌の修辞について、Googleの文書作成ソフトで提出させる。</p>	<p>【記録に残す評価】</p> <p>観点：[知識・技能]</p> <p>方法：「記述の点検」Googleの文書作成ソフト</p> <p>・Googleの文書作成ソフトに入力した内容を基に、和歌の修辞について理解しているかどうかを点検する。</p> <p>個人学習及びグループ学習の後に、各自のワークシートを全体共有し、相互に参照できるようにする。</p> <p>共有したワークシートを全員で見ながら、和歌の修辞を整理し、クラス全体で確認する。</p>
2 3 単 位 時 間	<p>○ 2つの教材を現代語訳し、内容を理解する。</p> <p>・ジグソー法により各教材を分担して読み、情報を持ち寄り、グループで内容を理解する。</p> <p>・現代語訳をグループご</p>	<p>・現代語訳プリントを効果的に活用し、訳出することに時間をかけすぎないように留意する。</p> <p>・前次のワークシート(Google</p>	<p>【指導に生かす評価】</p> <p>観点：[思考・判断・表現]</p> <p>方法：「記述の確認」Googleの文書作成ソフト及びJamboard</p> <p>※Jamboardの詳細については、「オ授業改善につながる『指導に生か</p>

<p>とに発表し、2つの教材の内容を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各教材の登場人物の関関図を作り、描かれた女性の置かれている状況、心情及び行動について、本文の記述を基に解釈する。 ○ 各教材に描かれた女性の心情と行動について、共通点と相違点を明らかにした後、「平安時代の女性の結婚生活と幸福感」という題で自分の考えを書き、グループで話し合う。 	<p>の文書作成ソフトで作成)を活用し、文脈に沿って和歌を適切に現代語訳させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情等を解釈する際には、第1次で調べた、作者や作品が成立した時代の背景、当時の婚姻制度等を踏まえるように指示する。 ・話合いの記録は、Googleの学習支援ソフトで配信したJamboardに残すこととし、付箋にメンバーの考えの要点をキーワードで示すよう指示する。 	<p>す評価』の工夫」を参照。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>各グループの現代語訳を共有ドライブ内で共有し、随時、相互に参照できるようにする。グループ学習中は、他のグループに適宜、質問や相談をしてよいことにする。また、他のグループの進捗状況が分かるようにする。</p> <p>発表の際には、各グループで作成したワークシート（Googleの文書作成ソフト）を全員で見ながら、各グループの発表を聞き、和歌の解釈を中心とした2つの教材の内容を理解する。</p> </div>
<p>3 （ 2 単 位 時 間 ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時にグループで話し合った内容を踏まえて、「平安時代の女性の結婚生活と幸福感」を描いた文学作品を読み継ぐ意義についての自分なりの考えを、各自でスライド（Googleのプレゼンテーションソフト）1枚にまとめる。 ○ 1人3分程度で、グループ内で発表する。 ○ 本単元の学習活動を振り返り、気付いたことや自身の考えの変容をワークシート（Googleの文書作成ソフト）に入力する。 ○ ワークシートの記載に基づき、各グループで振り返りを発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な考えに触れさせるため、前時で話合いを行ったグループとは異なるグループを設定する。 <div style="border: 1px solid black; background-color: #ffffcc; padding: 5px;"> <p>古典と実社会や実生活とのつながりを実感できるようにするため、グループで話し合った内容を基に、古典作品が現代まで読み継がれてきたことの意義について自分の考えをまとめたり、発表したりする学習活動を設定。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の気付きや考えの変容が記録できるよう、ワークシートの項目を工夫する。 	<p>【記録に残す評価】</p> <p>観点：[思考・判断・表現]</p> <p>方法：「記述の確認」<u>Googleのプレゼンテーションソフト</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出されたスライドについて、「平安時代の女性の結婚生活と幸福感」及びそれを描いた文学作品を読み継ぐことの意義について、これまでの学習を踏まえて多面的・多角的に考察し、自身の考えを広げたり深めたりしているかを確認する。 <p>【記録に残す評価】</p> <p>観点：[主体的に学習に取り組む態度]</p> <p>方法：「記述の分析」<u>Googleの文書作成ソフト</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出されたワークシートについて、我が国の言語文化において、人生の局面を描く文学作品を読み継ぐ意義について進んで考え、他者の考えに触れて、自己の学びを調整しようとしているかを分析する。

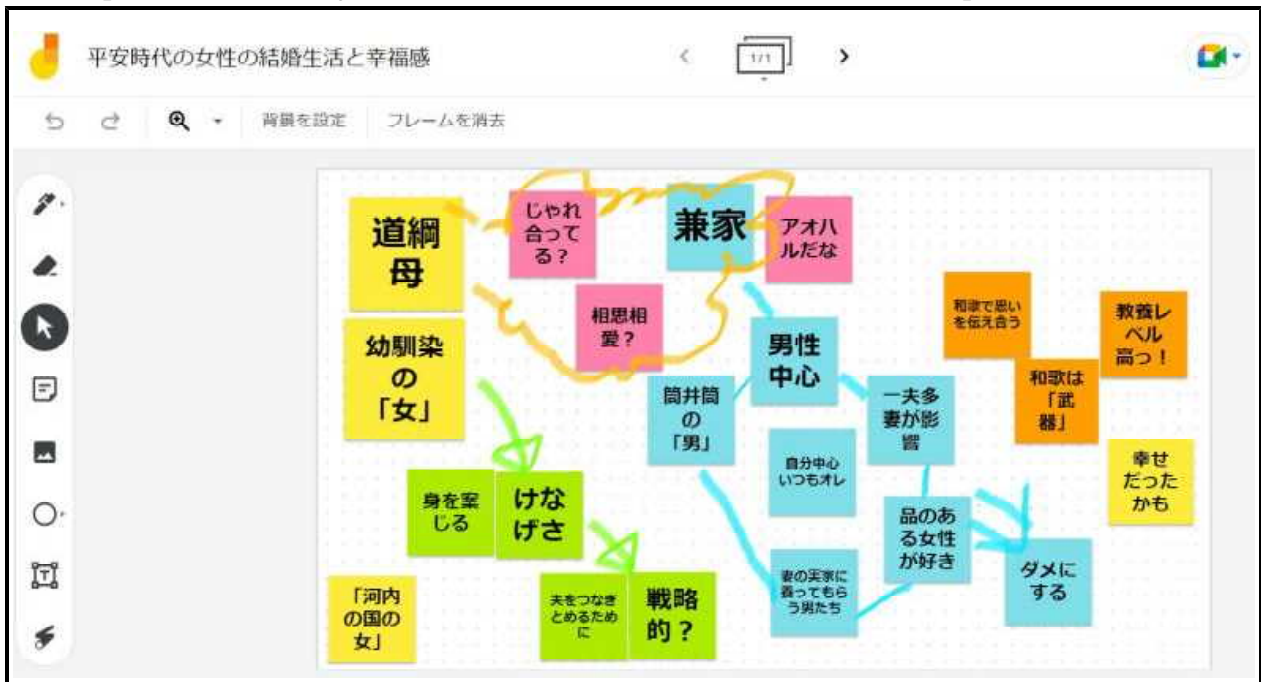
エ 学習指導案（6時間目／7時間中）

科目名	古典探究	単元名	古典における結婚生活と幸福感について考えを深めよう（A 読むこと）
本時の目標	テーマに沿って文学作品について話し合うことを通じて、我が国の言語文化について、自身の考えを広げたり深めたりする。		
本時で取り上げる主な言語活動	前時までの話合いを基に、「平安時代の女性の結婚生活と幸福感」及びそれを描いた文学作品を読み継ぐ意義についての自身の考えをスライド1枚にまとめ、他者と交流することで、自身の考えを広げたり深めたりする。		
教材	『蜻蛉日記』『うつろひたる菊』、『伊勢物語』『筒井筒]	実施対象	第2学年

	本時の評価の観点	本時の評価規準	本時の評価方法
本時における評価の観点、評価規準、評価方法	思考・判断・表現	「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。(A(1)ク)	「記述の確認」 Googleのプレゼンテーションソフト 提出されたスライドについて、「平安時代の女性の結婚生活と幸福感」及びそれを描いた文学作品を読み継ぐ意義について、これまでの学習を踏まえて多面的・多角的に考察し、自身の考えを広げたり深めたりしているかを確認する。
学習活動(言語活動)	指導上の留意点		評価の実際
導入(10分) ・本時の目標を確認する。 ・前時にグループで話し合った内容を、前時と異なるグループで共有し、様々な考えに触れる。	・1グループ4人程度とし、前回と異なるグループで、前時の話し合いの内容を共有し、様々な考えに触れられるようにする。		・スライドの記述内容から、「自身の考えを広げたり深めたりするために、これまでの学習を踏まえて多面的・多角的な視点から『平安時代の女性の結婚と幸福の関係性』及びそれを描いた文学作品の存在意義について考察している」姿を、「思考・判断・表現」の評価規準における「おおむね満足できる」状況(B)と捉え、評価する。
展開(25分) ・前時にグループで話し合った内容及び導入で共有した内容を基に、「平安時代の女性の結婚生活と幸福感」を描いた文学作品を読み継ぐ意義について、考えたことを各自でスライド1枚にまとめる。	・事前説明の際に、スライド作成に当たっての考え方を示したスライドを共有し、次のようなヒントを示す。 「共通点」「相違点」の整理を基に、「平安時代の女性の結婚生活とはどのようなものか」、「平安時代の女性の幸福とはどのようなものか」、「結婚生活と幸福はどのように関係するか」のように、テーマを分割して考えよう。		
まとめ(15分) ・作成したスライドを用いて、1人3分程度で発表する。 ・クラス全員のスライドを全体共有する。	・教員が発表時間を管理する。 ・発表を聞く際には、各自でメモを取るよう促す。 ・発表終了後にスライドを全体共有し、生徒同士で閲覧できるようにする。		

オ 授業改善につながる「指導に生かす評価」の工夫

【話し合いにおけるJamboardを活用した例(5時間目/7時間中)】



各教材に登場する女性の共通点や相違点について、Jamboardに入力された語句等の状況から、話し合いによって考えを広げたり深めたりしているかを確認する。現代語訳をそのままコピー&ペーストしている生徒には、グループでの話し合いを踏まえて「考えたこと」や「読み取ったこと」を、キーワードで記載するよう指導する。